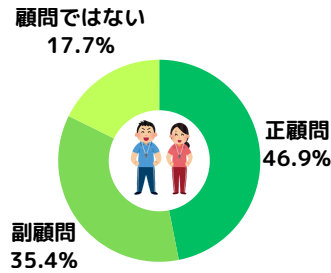


部活動に関するアンケート結果概要

調査対象：市内中学1～3年生及び保護者、教職員
調査時期：令和5年7月18日～8月末日
調査方法：学校から配布された二次元コード付きチラシよりWeb回答
回答数：生徒745名 保護者375名 教職員114名

教職員結果

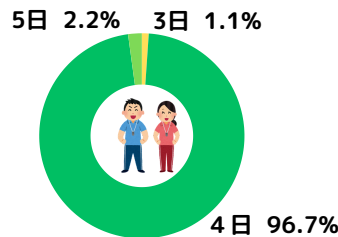
Q1 現在部活動の顧問をしていますか



正顧問	46.9%
副顧問	35.4%
顧問ではない	17.7%

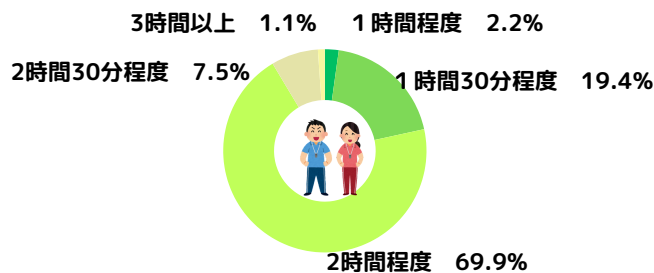
※Q2～Q7は「部活動の顧問をしている」教職員のみ回答

Q2 平日の活動日数



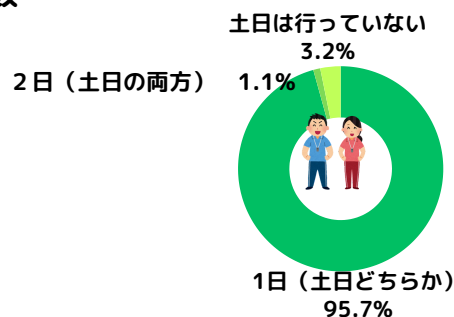
3日	1.1%
4日	96.7%
5日	2.2%

Q3 平日の平均的な指導時間



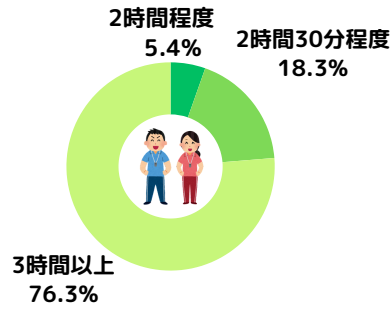
1時間程度	2.2%
1時間30分程度	19.4%
2時間程度	69.9%
2時間30分程度	7.5%
3時間以上	1.1%

Q4 休日の活動日数



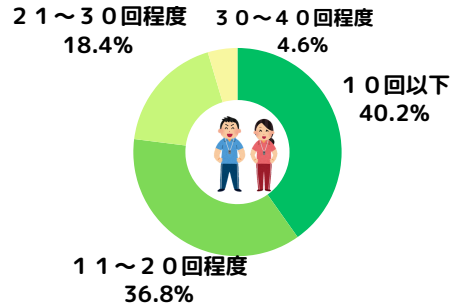
1日（土日どちらか）	95.7%
2日（土日の両方）	1.1%
土日は行っていない	3.2%

Q5 休日の平均的な指導時間



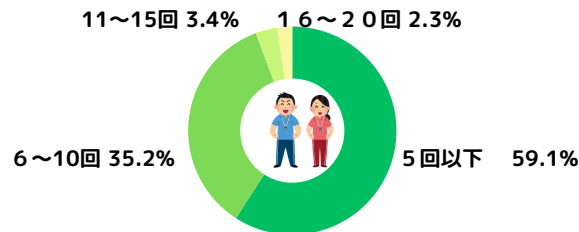
1時間30分程度	0.0%
2時間程度	5.4%
2時間30分程度	18.3%
3時間以上	76.3%

Q6 年間の練習試合や発表会などの回数



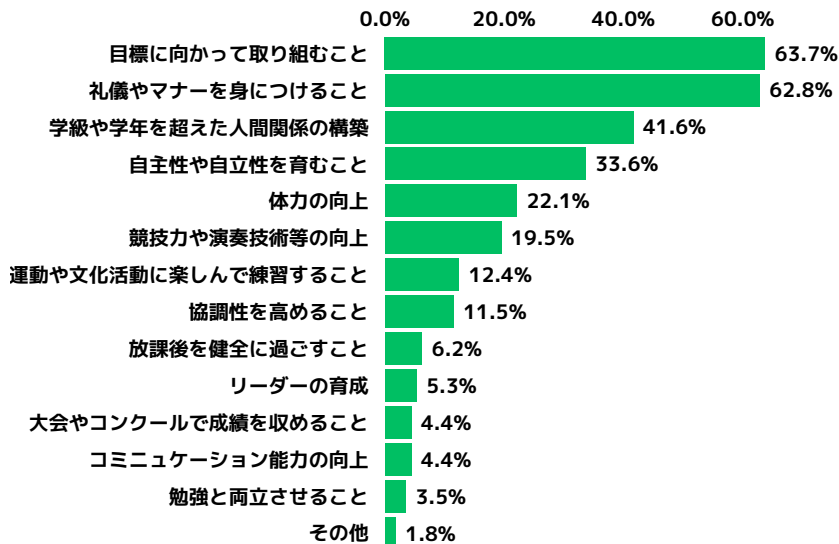
10回以下	40.2%
11~20回程度	36.8%
21~30回程度	18.4%
30~40回	4.6%

Q7 年間の公式の試合や発表会などの回数



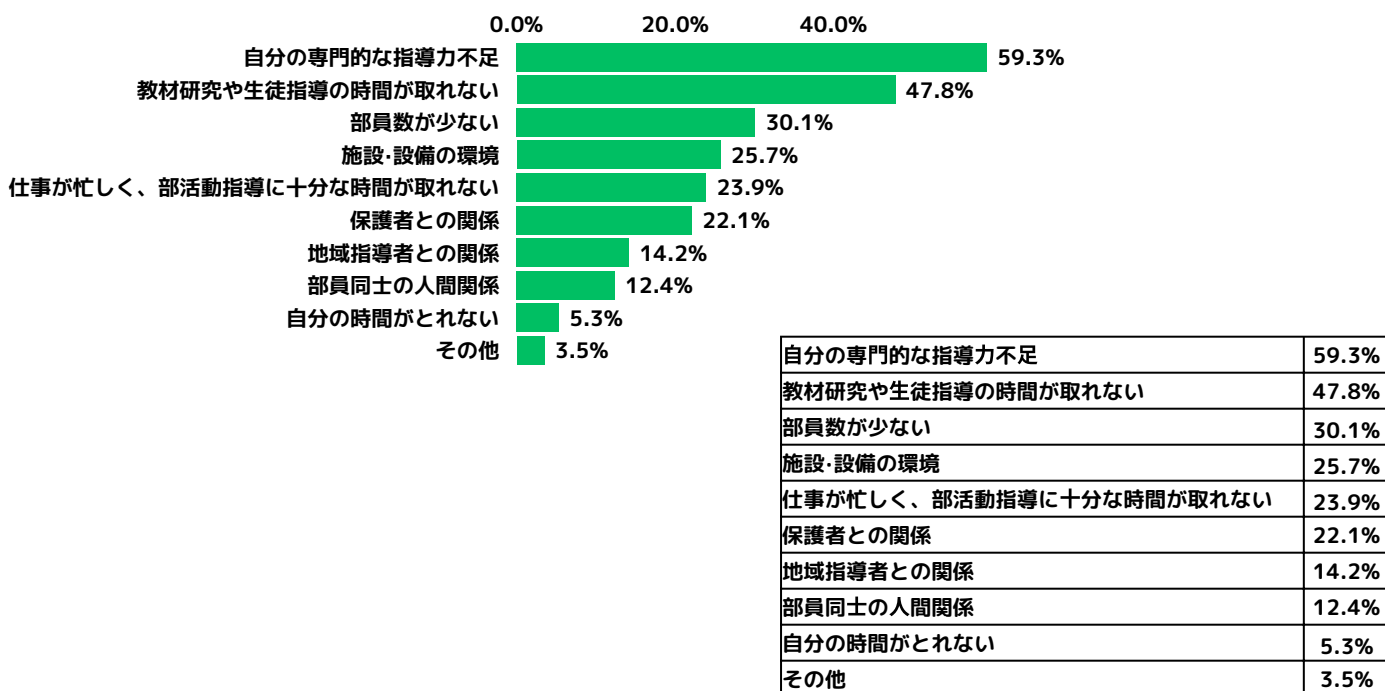
5回以下	59.1%
6~10回	35.2%
11~15回	3.4%
16~20回	2.3%

Q8 部活動の指導を通じて目指していること（目指すべきこと）

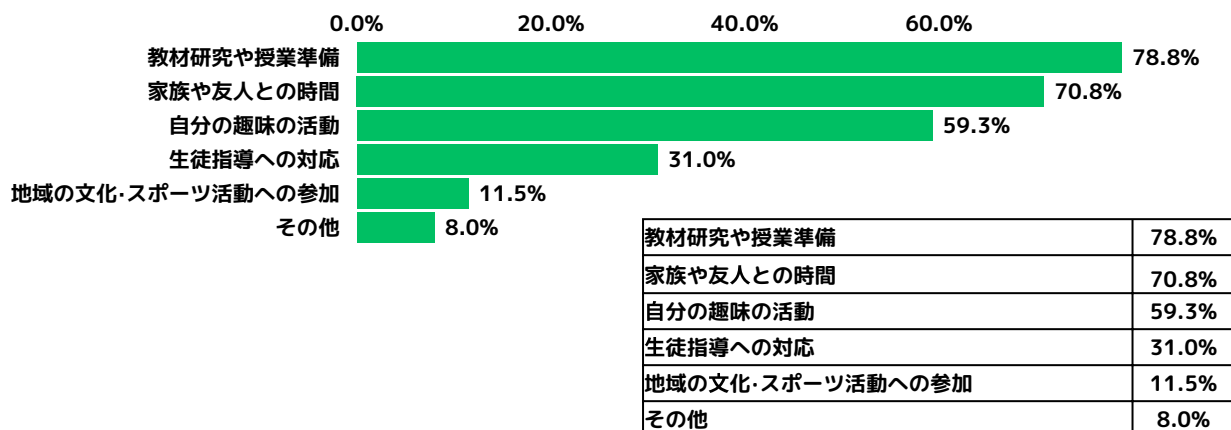


目標に向かって取り組むこと	63.7%
礼儀やマナーを身につけること	62.8%
学級や学年を超えた人間関係の構築	41.6%
自主性や自立性を育むこと	33.6%
体力の向上	22.1%
競技力や演奏技術等の向上	19.5%
運動や文化活動に楽しんで練習すること	12.4%
協調性を高めること	11.5%
放課後を健全に過ごすこと	6.2%
リーダーの育成	5.3%
大会やコンクールで成績を収めること	4.4%
コミュニケーション能力の向上	4.4%
勉強と両立させること	3.5%
その他	1.8%

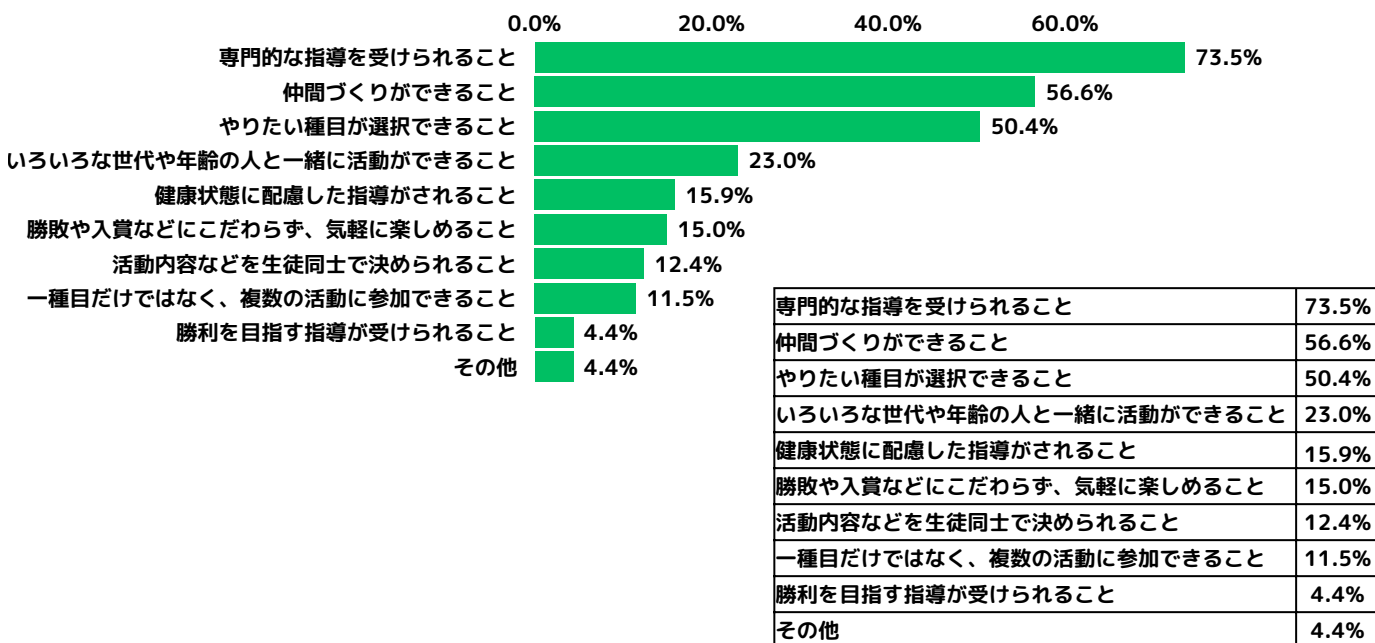
Q9 部活動について課題だと感じているところ。



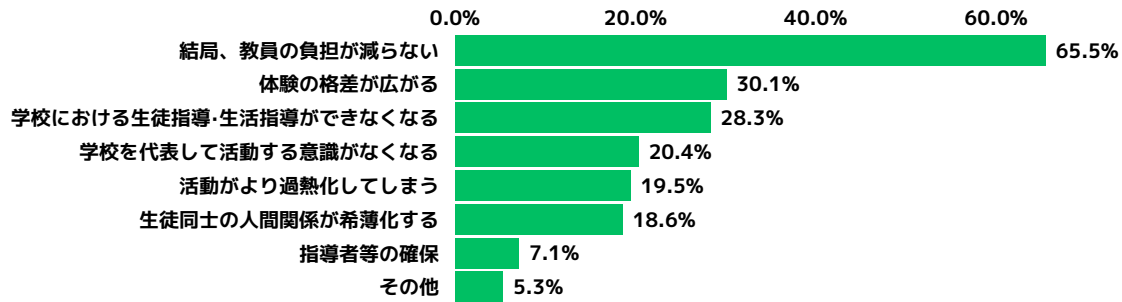
Q10 部活動指導がなくなったらどのようなことに時間をさきたいか。



Q11 生徒にとってより良いスポーツ・文化活動にするために、どのようなことが大切だと思うか。

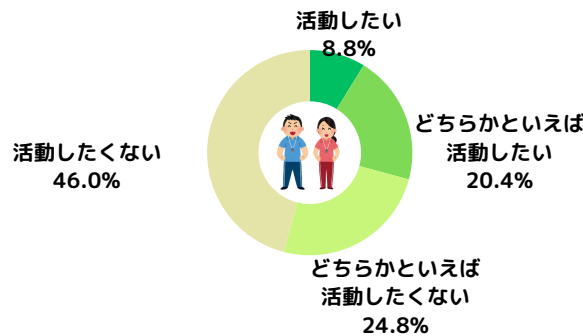


Q12 地域でスポーツ・文化活動を展開するにあたり課題だと思われること



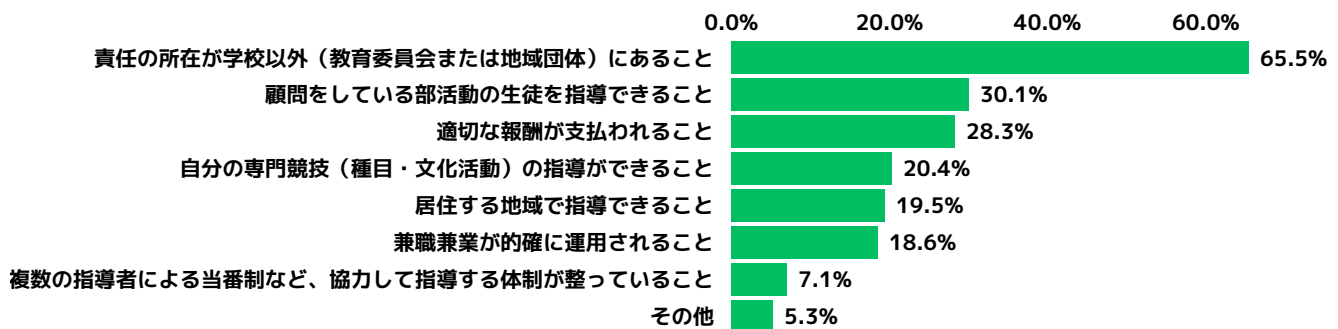
結局、教員の負担が減らない	65.5%
体験の格差が広がる	30.1%
学校における生徒指導・生活指導ができなくなる	28.3%
学校を代表して活動する意識がなくなる	20.4%
活動がより過熱化してしまう	19.5%
生徒同士の人間関係が希薄化する	18.6%
指導者等の確保	7.1%
その他	5.3%

Q13 休日の部活動が地域に移行された場合に、地域指導者として活動したいか



活動したい	8.8%
どちらかといえば活動したい	20.4%
どちらかといえば活動したくない	24.8%
活動したくない	46.0%

Q14 地域指導者として活動を行う場合には、どのような環境が整うことが大切だと思うか。



責任の所在が学校以外（教育委員会または地域団体）にあること	65.5%
顧問をしている部活動の生徒を指導できること	30.1%
適切な報酬が支払われること	28.3%
自分の専門競技（種目・文化活動）の指導ができること	20.4%
居住する地域で指導できること	19.5%
兼職兼業が的確に運用されること	18.6%
複数の指導者による当番制など、協力して指導する体制が整っていること	7.1%
その他	5.3%

Q15 地域の文化・スポーツ活動をより良いものにするために（自由記述）

- ・子どもたちの健全な成長を促すことが第1の目標であることを忘れてたくない。生徒たちのことをしっかり考えて、良い部活の環境を作りたい。
- ・クラブ活動などあまり成績等にこだわることなく、自分の趣味に近い活動であれば、生徒の見守りや引率程度はやってもいいと感じている。地域の人材を中心として文化部の充実をしてもらえると生徒の体験活動の充実につながるのではないかなと思う。
- ・本格的に活動したい者は今でもクラブチームに所属している。少子化や興味関心の多様化が進むなかで、既存の体制のままでは難しいと思う。個人的には楽しく活動できればいいと思う。ただ勝利至上主義の抵抗勢力がいるのも確かである。
- ・現場では、部活動指導に熱心な教員もいますが、専門外の部活動顧問になり、精神的な負担の大きい教員もいます。また、生徒数の減少により合同チームを組んで新人戦に出場することになっております。子どもたちにとって部活動は大きなものであり、社会で生きるための大事なことを学ぶことができる場でもあります。指導者の確保や予算等で大変かと思いますが、子どもたちにとっても教員にとっても意義のある取り組みになりますようお願いいたします。
- ・やりたい教員もいるので、そういう教員への配慮をおねがいしたい。好きで勝手にやっていると見られるのは残念である。
- ・専門的な分野での指導ができないことが大変苦しい現状です。時間的な拘束も多く厳しいです。いち早く地域移行していくことを期待しています。
- ・部活動の地域移行に関して、市から一般の方々への周知を行って下さい。（知人の保護者に話を聞いても、何も知らないという方々ばかりです。）HPや広報誌などを通じて部活動地域移行の情報を公開、期限を公示する。定期的に地域移行の案内を出すと同時に、指導者を希望する者に対しての講習会などを開催する。移行完了期限までに学校と連携を図り、引き継ぎを行う。という流れを作って頂きたい。指導を引き受けてくれる人材が見つからないという懸念がありますが、「引き受け手がない」ということは「存続のニーズがない」ということです。その場合は迷わず廃部にすべきです。これ以上「子どものためだから」という教員の善意に甘えるのは止めて頂きたい。膨れ上がる業務量に心を壊す教員が増加しています。また、全国的にも教職は“魅力の薄い職業”としてなり手が減少しています。真岡市には是非、現状を打破すべく、地区県に先立って今後の部活動の在り方のモデルを示して頂きたいと強く願っています。
- ・大会運営も民間や企業に委託できるようになるといいと思います。
- ・部活動顧問を担当したときに、自分の学校のチームと地区選抜のチームと県選抜のチームと3つのチームを運営しなければならず、とてもつらかった。どなたかにしわ寄せがいかないよう、参加したい人たちだけで運営できるように努力すべきだと思う。
- ・美術部などは、地域の市民講座のように多彩な人材が、大きな枠組みで活動を募集したら生徒も楽しいだろうと思います。一方、合唱や吹奏楽、スポーツは継続した練習やチームワークが必要なので、ある程度の地域枠を設定し、メンバーも一定になるような（少年サッカーチームのような）ルールが必要ではないかなと思います。
- ・生徒ファーストを忘れてはいけない。大人が勝手に地域に移行する環境をつくってしまっただけではいけない。合同チーム規定の更なる緩和など、段階的に進めていくべきである。
- ・できるだけ早く地域に移行してほしい。新しいクラブをつくるのではなく、既存のクラブを頼るなど多様な方法を考えて欲しい。芳賀郡はいろいろなクラブがあり、移行しやすいと思う。